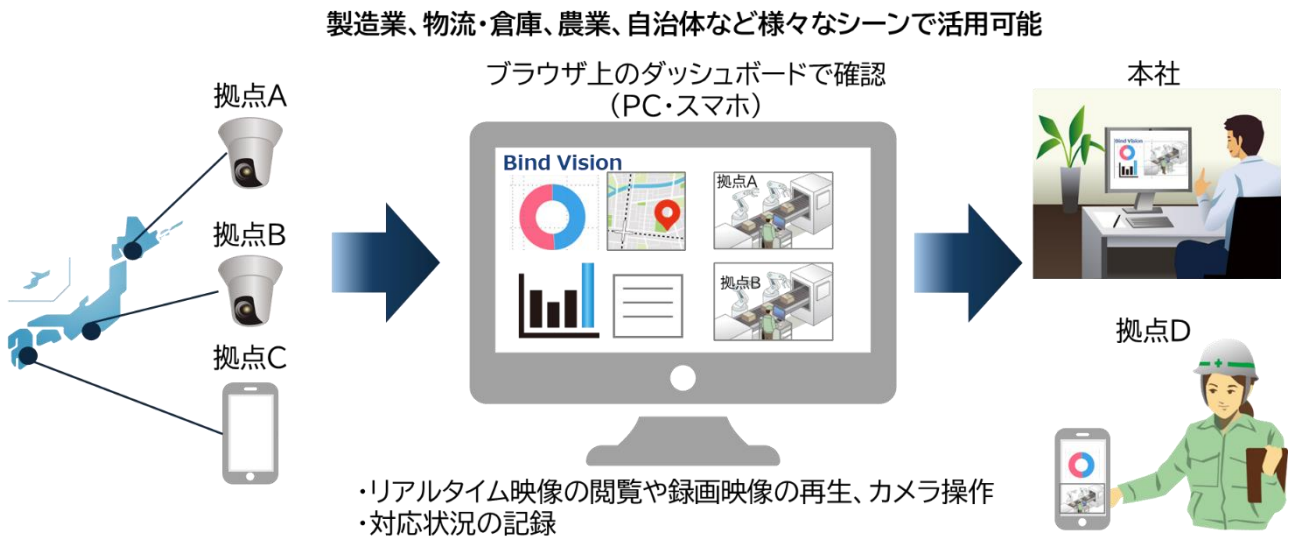


画像 AI 連携プラットフォーム「Bind Vision」にカメラ映像を活用した新機能追加
リアルタイム映像と記録機能を強化し現場業務を支援

キヤノンマーケティングジャパングループのキヤノン IT ソリューションズ株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：須山 寛、以下キヤノンITS）は、映像とデータを統合的に扱う画像 AI 連携プラットフォーム「Bind Vision」において、カメラ映像のリアルタイム閲覧や録画映像の確認、現場での判断や対応内容を記録できる機能を拡充し、2026年4月21日(火)より提供開始します。



■「Bind Vision」機能拡充の背景

工場や倉庫、農業現場、公共施設など、さまざまな現場では、人手不足の深刻化や業務の効率化、安全管理の高度化を背景に、カメラやセンサー、AI の活用が広がっています。一方で、映像やセンサーのデータは用途や機器ごとに別々の仕組みで管理されているケースも多く、複数の画面やシステムを行き来しながら確認しなければならないなど、横断的な確認や活用が難しい場面もあります。

こうした背景のもと、「Bind Vision」は、プラットフォーム機能を強化し、カメラ映像の閲覧や操作、録画映像の確認に加え、エッジ AI を強化するなど、カメラ映像に関する機能を拡充しました。

■新機能の特長

従来の静止画の確認に加え、リアルタイム映像の閲覧や録画映像の再生、カメラ操作までを、PC やスマートフォンのブラウザから「Bind Vision」上で一元的に行えるようになりました。これにより、複数の画面やシステムを切り替えることなく、現場の状況を映像でまとめて確認できます。また、オプションとして提供する煙検出 AI はエッジ AI として実装することで、異常の兆候や状況の変化をより迅速に把握できます。

あわせて、現場での判断や対応内容をダッシュボード上に直接記録できるメモ機能を追加しました。映像やセンサーのデータ、グラフとあわせて情報を残すことで、状況確認から判断、記録、振り返りまでを一つの流れで行えて、より実務に即したプラットフォームへと進化しました。

■今後の展開

「Bind Vision」は、防災や特定用途に限らず、製造/倉庫業務における設備点検作業や、農作業における遠隔での確認作業など、現場の情報基盤として、今後も機能拡充を進めます。分断されがちな映像やデータ、判断を一つにまとめることで、業務負担を軽減しながら、改善や次の判断につながる活用を支援します。

追加機能※1	希望小売価格（税別）	提供開始日	機能概要
メモコンテンツ	200 円/月	2026 年 4 月 21 日	ダッシュボードへの任意のメモを記録
PTZ アプリ※2	2,000 円/月	2026 年 4 月 21 日	PTZ によるライブ映像・録画データの閲覧
煙検出 AI(エッジ AI) ※3	1,250,000 円～	2026 年 4 月 21 日	エッジコンピュータ搭載 AI による煙の検出・通知
煙検出 AI(カメラ AI) ※4	400,000 円～	2026 年 4 月 21 日	AXIS カメラ搭載 AI による煙の検出・通知

※1.別途プラットフォーム利用料（30,000 円～/月）が必要

※2.「Pan（パン）・Tilt（チルト）・Zoom（ズーム）」の略（操作によりカメラの向きやズームを自由に変更できる機能）

※3.別途エッジコンピュータ費用、年間保守費用が必要

※4.別途年間保守費用が必要

●報道関係者のお問合せ先	:企画本部 コーポレートマーケティング部 コミュニケーション推進課	03-6701-3603
●一般の方のお問い合わせ先	: I T マネージドサービス事業部 I T サービス事業企画部	03-6701-3513
●Bind Vision ホームページ	: https://www.canon-its.co.jp/solution/industry/cross-industry/image-integration/bindvision	
●ニュースリリースホームページ	: https://canon.jp/newsrelease	

■業種別ユースケース

業種	利用シーン	従来の課題	Bind Vision による改善
製造業	設備・現場状況の遠隔確認と判断の記録	静止画確認や別システムでの詳細確認が必要で、判断理由が残らず引き継ぎが属人化。	映像とデータを一つの画面で確認。設備トラブル検出 AI と合わせて活用し、対応判断をメモとして記録することで、振り返りや引き継ぎを効率化。
物流・倉庫	複数拠点の状況確認とトラブル対応	拠点ごとに管理画面が分かれ、トラブル時の事実確認に時間がかかる。	複数拠点・複数カメラの映像を一元管理。トラブル検出 AI 結果とともに該当時間帯の映像を即確認し、対応内容を記録して再発防止や改善に活用。
農業・一次産業	遠隔見守りと作業判断の蓄積	現地確認の負担が大きく、判断や経験が個人に依存。	PC やスマートフォンのブラウザから農地や農業施設の状況を遠隔確認。各種センサーの結果と合わせて温度調整などの判断をメモとして残し、過去の映像とともに振り返りや共有が可能。
自治体	平常時から使える防災・施設見守り	異常発生時の状況把握や初動判断に時間を要する場面がある。	精度が向上した煙検出 AI で火災の兆しを早期に検知。リアルタイム映像確認や PTZ 操作により現地状況を即把握でき、発災時の初動対応を迅速化。

■画像 AI 連携プラットフォーム「Bind Vision」について

画像 AI 連携プラットフォーム「Bind Vision」は、画像解析 AI システムにおいて重要な役割を担う Web システム機能をクラウドで提供するサービスです。Web API を通じて画像や数値データ、AI 解析結果を登録・配信でき、PC やスマートフォンのブラウザからダッシュボード上で映像やデータを分かりやすく閲覧できます。また、「Bind Vision」でオプション提供している煙検出 AI や水位測定 AI と組み合わせることで防災システムとしても活用できます。